

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和6年1月8日（月・祝） 13:00～14:15
場 所	毛呂山町立川角小学校 南校舎2階多目的室
参加者等	小学校保護者（川角小学校） 10名
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 佐藤学校教育課指導主事 岩田教育総務課管理係長 佐藤教育総務課管理係主事補
発 言 者	内 容
石田課長	<p>本日はお忙しい中、毛呂山町立小・中学校学校編成計画（案）についての説明会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。このたび教育委員会では、子どもたちにより良い学校のあり方についての再検討をし、学校教育における課題、今後の児童・生徒数の推移、必要とされる教室数、既存学校校舎の維持管理、維持更新などの教育的環境を解決するため、最も望ましい施設形態とその時期を示す毛呂山町立小・中学校編成計画（案）を策定いたしました。本日の説明会は、この編成計画（案）に関する説明会となっておりますので、よろしく願いいたします。本日の説明会でございますが、人数の把握をするために事前に希望者を募り確認をさせていただきました。ご協力をありがとうございます。また、急遽人数の関係などから、会場の方を変更させていただきましたことに対するご協力、ありがとうございました。本日説明会のお時間ですけれども、約2時間前後とさせていただきます予定でございます。併せて撮影や録音の方につきましてはご遠慮いただきますようお願いいたします。なお、教育委員会は説明会の内容の方をホームページなどで公表したいと考えておりますので、録音の方をさせていただきますことを、あらかじめご了承をお願いいたします。それでは、毛呂山町立小・中学校編成計画（案）について説明会を開催したいと存じます。最初に、教育長よりご挨拶をいただきます。</p>
高沢教育長	<p>改めまして、みなさんこんにちは。教育長の高沢でございます。昨年も色々お世話になりましたが、本年もどうぞよろしくお願いいたします。開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>まず、1月1日に発生しました能登半島地震で大変尊い命を失われた方々、また震災に遭いまして避難を余儀なくされている方々に対してお悔やみと心よりお見舞い申しあげます。是非皆さんの方もできるところで、是非ご協力いただければありがたいかと思っております。本日は休日、連休の3日目ということ、そして学校の方は明日から3学期が始まります。大変ご</p>

	<p>多用の中、ご出席いただきましてありがとうございます。日頃より、保護者、また地域の皆様の学校教育に対するご支援ご協力重ねて感謝申し上げます。</p> <p>さて、教育委員会の方では先ほど司会から案内があったとおり、学校編成（案）の方を作成させていただきました。町の方でも人口減少、それから少子高齢化、様々な課題が山積する中で、子どもたちにより良い教育の環境を提供するためにはどんなものが一番望ましいかということで、平成の25年より検討させていただきました。各関係団体の皆様からご意見をいただきながら2回ほど提言を出させていただきました、そしてそれらを基に、平成30年、未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～ということで、教育計画をまとめさせていただきました。町のホームページですとか、様々な広報活動を通じて皆様にお知らせし、今それを順次進めているところでございます。しかしこの間、コロナの影響ですとか、あるいは小学校における35人学級の導入等で、教育環境も大きく変化してまいりました。そこで昨年、町立小中学校のあり方に関する検討委員会を設けさせていただきました。委員の皆様から様々なご提案等をいただきました。それを基に今回また編成の方をさせていただいたわけでございます。学校教育の中で、子どもたちに様々な環境を提示する中で、やはり施設・設備、それから人的な環境、それから教育の内容、これにつきましては日々変化するものではありますけれども、より良い環境を是非提供させていただきたいということで私たちはこの編成計画の方をさせていただきました。子どもたちへの指導にあたる先生方、そして学年ごとの教科の内容、指導の内容、さらに施設・設備、校舎ですとかあるいは校庭。様々なそういう環境を具体的に示しながら進めてまいるわけでございます。将来を担う子どもたちのために、より良い教育を私たちの方も提供していきたいということが第1でございますので、夢を持って世界に羽ばたく毛呂山の子どもたちを是非育成してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。毛呂山町教育委員会の方の考えの方を説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>ありがとうございました。それでは、本日の説明会に際し、職員等の紹介をさせていただきます。</p>
	<p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p>
石田課長	<p>それでは、教育総務課道地副課長よりご説明をいたします。</p>

道地副課長	<p>教育総務課の道地と申します。本日はよろしくお願ひいたします。説明会に入る前に、お配りした資料の確認をさせていただければと思います。次第、資料、感想記入用紙になります。感想記入用紙におきましては、ご記入いただき、お帰りの時に受付のカゴの方に入れていただければと思います。今回の説明に関しましては、この資料を元に進めさせていただきますが、この資料白黒でございますので画面を見ていただいた方がわかりやすい部分がございますので、画面を見ていただければと思います。それでは私の方から小中学校の編成計画（案）について説明させていただきます。それでは、着座にて説明させていただきます。</p> <p>初めに実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のより良い教育環境を整備するために、川角中学校区におきましては施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区におきましては施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。</p> <p>平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的に大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されております。手引きの中では「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える」とされております。学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしましては、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がってしまう、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられます。そういった形で、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では学校単位でございますが、9学級以上を確保することが望ましいという形となっております。</p>
-------	--

それでは、子どもたちの置かれている現況について詳しく見ていきたいと思ひます。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある学校づくり」に関する参考資料でございますが、こちら生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加していきます。いわゆる少子高齢化です。赤枠でくくってある2060年は2010年生まれ、今の13歳、現在中2の生徒が50代の時になることを示しています。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になります。こちら青が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えているのがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。こちらは現在の状況になります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転しているのがわかると思ひます。続きまして、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフになります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況でございます。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人という形になります。こちらは、児童のいる世帯の状況となっております。右側の白い部分が児童のいない世帯になってございますが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っているのがわかると思ひます。こちらは家族の中で、対人関係を形成する組み合わせを示したものでございます。2人家族ではもちろん1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなっています。そのため、学校において多様な人間関係を経験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移となっております。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに減少しており、今年令和5年度では1,801人となっており、ピーク時に比べると約34%まで減少しているということとなっております。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推計となります。減少してきた児童生徒数は、今後も減少していくことが推測されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級数となっております。令和11年度以降なんですけれども、光山小学校、泉野小学校の全ての学年で単学級となる見込みとなっております。続きまして、教員数についてでございますが、小学校で校長・教頭を両方含めて事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校はすでに1人となっております。泉野小学校は令和7年度から、川角小学校においては

令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。続きまして、小中学校施設の建築年度でございます。町の小中学校は6校ございますが、見ていただいているとおり全ての学校が建築後40年以上経過している状況でございます。こちらは、小中学校の改修の状況になります。この中で下の赤枠内の大規模改修ですが、学校の中で工事が済んでいるのが毛呂山中学校と川角中学校になります。毛呂山小学校は体育館の大規模改修が済んでいます。今後ですね、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して全て大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会を立ち上げまして、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3クラス以上が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、この通学40分以内というのは通学距離にするとおおむね3キロという形で提言をいただいております。続きまして、平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、先ほど教育長からも説明がございましたが、平成30年に未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになってございますので、後ほど資料の方で確認させていただければと思います。

小中一貫教育の導入の主な狙いがございます。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることによって更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それではですね、令和3年度に小中一貫教育の取り組みがゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思っております。

～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～

(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)

今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。

こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の校舎だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の時間でございます。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っていることを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っております。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じような授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間を分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の更なる充実と、児童生徒のよりよい教育環境整備をするために先ほども一番最初に申し上げましたが、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。

それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地のため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができます。

す。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。また、一体型・隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率よく学校との協働ができるものと考えられます。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等でございます。まず、川角中学校区でございます。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設し施設一体型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級でございます。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区でございます。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地でございます。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級でございます。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支援学級を2学級として8学級となっております。毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定となっております。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと。川角小学校と光山小学校については、川角小学

校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革などは毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。続きまして、こちら川角中学校の敷地イメージでございます。画面のピンクのところになりますが、増築校舎は校舎の西側・プール横側のあたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保などを検討した結果でございます。また併せて学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保を維持します。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してのスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを、右下になるんですけれども、お示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細が検討され決定されていきますが、まずは教育委員会で検討した結果でございます。続きまして、こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までの利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎での教育となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中学生との体格差などにより、ゾーニングなども考慮しての増築校舎の教室整備でございます。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を開始する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものになりますが、イメージとなっております。このような形で、多目的室を整備し、行っていきます。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。続きまして、こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生と一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室にすべての授業の用意が整っているため、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待で

	<p>きます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージでございます。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備でございますが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山小学校内の学童保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところでございますが、お示しいたしております。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、A棟（南側）のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の木質化を考えております。毛呂山中学校校舎のイメージでございます。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を利用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。今後のスケジュールでございます。12月から1月にかけて編成計画（案）を説明し、ご理解いただけるように努めて参ります。1月から2月にかけてパブリックコメントを実施し、3月に計画の策定と考えています。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。私からの説明は以上になります。ありがとうございました。</p>
石田課長	<p>それでは、これから質疑応答などの時間に移らせていただきます。事務局からの質疑に対する回答ですけれども、着座にての回答というところでご理解をいただきたいと思っております。挙手をいただければご指名いたしますので、お名前を名乗って、ご質問の方をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。それでは、今の説明、またはその他のところでも結構です。何かご意見やご質問などありますでしょうか。</p>
高沢教育長	<p>ざっくばらんに何でも結構ですので、どうぞ。</p>

石田課長	お願いいたします。
A	<p>Aです。子どもが3人いて、1人はもう大きいんですけども、4年生と2年生にいます。それで今PTA本部の方をやらせてもらってます。で、ちょっと小中一貫校で気になったことがいくつかあるんですけども、今の時代多様性ですので、確かに少人数ではできないこととかも、たくさん将来ぶつかると思うんですけども、なんて言うんですかね、ちょっとうまく言えないんですけども、中1の壁を無くすために、色々、それもすごく良いなとは思ったんですが、ただ社会に出たときに必ず壁にぶつかると思いますし、そこで子どもたちがどのように力をつけていくかが、保護者の私たちと、あとは周りの先生たち、あとはお友達関係。色々関わってはくと思うんですけども、それを小中一貫にして、すみません、まとまってなくて。人数が増えれば増えるほど、色んな問題も出てくると思いますし、かといって少ないから良いというものでもないですし、本当にこれはやってみないと多分何とも分からないと思うんですけど、きつともうこういう案が進んでるということは、もうこのまま進んでいくんだろうなというのがあるので、この計画が皆さんがちゃんと想像しているようにうまくいくといいなというのがまず1つと、今日来てないお母さんからの質問なんですけど、令和11年の時に中学校3年生になる子がいるんですけども、受験生で、そこに小学生が来たときにすごく勉強の不安は感じていました。環境が変わるので、中学校3年生になる子に対してどうかなってという意見がありました。お願いします。</p>
石田課長	<p>はい、ありがとうございます。まず、計画に対する全体的なところということで私の方からお答えをさせていただきます。計画の方は、確かに意見の中で入っていた中1ギャップであるとか、そういう色々な課題に対するところに対してもメリットとしてある計画だというふうにしております。ただ、その部分だけではなくて、児童が減っていくことに対する教職員の関係であるとか、施設の老朽化であるとか、様々なことを検討した中で計画だということは、まずもってご理解していただきたいと思えます。そういった中でですね、お友達の関係でお預かりした内容であるとか、教育委員会としても、11年に編成、開校を迎えるにあたるまでに当然そこまでに、現在学校に通っている児童生徒さんはいらっしゃいます。その児童生徒に対して、今の環境が今以上の環境になるように、そのあたりのところはしっかりと気にかけて計画の方は進めていきたいと、そのところではご理解願いたいと思えます。私からは以上です。</p>

土屋課長	<p>11年度開校ということで、その時の中学校3年生の不安というのは確かにあると思います。ただ、小中一貫教育というのは今現在も行っていますので、先ほど少し紹介があったように、毛呂山中学校については橋で繋がっていますので、とても行き来しやすい状況ではあるんですね。いずれは、川角中学校区においても11年を待たずして、小学校6年生が中学校の校舎に行って授業をやったりとか、そういうことも計画していますので、大きく11年度からガラッと一気に環境が変わるというわけではなくて、徐々に徐々にというふうにやってまいりますので、その辺はご安心いただければと思います。また、教科センター方式っていうところも紹介させていただいたので、これもすぐにでも始められるものではありますので、学校の方で工夫をしていってですね、そういった部分では受験生でもありますので学力のこと、授業のこと等があると思いますが、そういったところは充実していきますので、そういった面では徐々にやっていきますのでご安心いただければと思います。</p>
高沢教育長	<p>小学生が同じ校舎の中で学ぶことについて、中学生の方がちょっとあわないかということについては。</p>
土屋課長	<p>そこは、徐々に徐々に5、6年生も入っていきますので。そういった部分というのは小学生も中学生も慣れていくものであると考えておりますのでご安心いただければと思います。</p>
石田課長	<p>ありがとうございます。今いただいた意見、こちらからの回答に対する質問であったり、また別のものでも、どんなことでも結構です。ご質問などございますでしょうか。お願いいたします。</p>
B	<p>Bと申します。スクールバスの導入っていう話があったんですが、導入するとしたら、どのあたりの距離、または地区にある児童生徒が対象になるのか、もし想定があれば教えてください。</p>
道地副課長	<p>先ほど説明の中でも述べさせていただきましたが、スクールバスとしては3キロ以上の行政区をというふうに考えておりまして、川角中学校区のところではいますと、目白台3丁目、4丁目、東原団地、苦林、玉林寺を考えていますが、今後精査の部分でまた増える可能性があります、今のところ今言った行政区になります。</p>
A	<p>部活なんですけど、中学生が部活をやっている時は、小学生は学童に行く子は行くんですけど、校庭では遊べないんですか。</p>

土屋課長	部活動についての関係ではあるのですが、グラウンドの方が部活で使っているところと、逆に使える場所というのも考えております。この辺りも割と広く使えたりしますので、そういったところ、学童もありますので、エリアを分けてということも考えられます。5、6年生はクラブ活動をやっていると思いますが、部活との連携というところも想定はしておりますので、一体型というか、施設一体型であったり、隣接型であったり、敷地が1つになると色んな事ができるかなと考えています。
石田課長	後ろの男性の方、お願いいたします。
C	Cです。よろしく申し上げます。長男が今、川角小学校1年生なんですけれども、校舎が新しく完成して移行した場合に、どっかに書いてあるか分からないんですけど、旧校舎というか、今のこの敷地とか校舎っていうのはどのように活用されるんでしょうか。例えば、人数が小中一貫になって多くなると部活も制限されてしまう、場所も制限されしまうというのであれば、ここの敷地も使えたらいいのかなと思いますし、あとは、保護者が駐車場として使うところが無いというところで困っているので、そういうのに使えたらいいのかなとも思っているんですけど、何か活用とかの予定はあるんですか。
石田課長	具体的な活用に対するご意見ありがとうございます。今現在、どの学校をどのように使うというふうな具体的に何に使うというところまでは決定しておりませんが、できるだけ活用できるようにしっかりと検討して、地域の交流センターであったり、住民の皆様に使いやすい形での検討をしっかりと進めていきたいというふうには考えております。そういった中で、今ご提案くださったところが、どのように活かしていけるかという、そういう部分になるとは考えております。
D	はい。
石田課長	お願いいたします。
D	グラウンドの使い方なんですけれども、お昼休み時間等で、小1の子と中3の子が同じ昼休み時間に遊ぶという状況になったりはしますか。限られた場所で、休み時間は皆さん子どもたちは外に出ることもあると思うんですけど、その中でどういう使い分けというか、プランはありますか。

土屋課長	川角中学校のグラウンドなんですけど、毛呂山中学校と比較すると、全然広い状況となっております。今現在、基本的に外で遊ぶのは、中学生は昼休みしかないんですね、業間休みが無いので。業間休みは小学生が使えるかなと。昼休みについては一斉に使うことを想定しております。今、川角中学校で実際、遊んでいる状況を見ると、人数がかなり減っているの全部広がって遊んでいるような状況では無いんですね。なので、エリア分けをしっかりとやっていきたいと考えております。遊具スペースと書かれているんですが、この辺りが職員室になりますので、遊具をこの辺りに設置をして、低学年であったり、小学生が遊べるような形、中学生はちょっと距離を、エリア分けをして、少し離れたところでしっかり分けて運用していきたいと考えています。ちなみに毛呂山中学校で、先ほども写真があったんですけど、6年生と中学生が仲良く遊んでいて、小学生の方がチャイムが鳴ると、走って校舎に入るイメージが強いんですが、中学生はそれをちゃんとよく見ていて、ぶつかったりせずにですね、小学生に配慮するじゃないですけど、そういった部分で、よくお互いに気をつけながら遊んでいるなど。声も掛け合っていましたし、特に危険な感じでは無く過ごしているなど思いましたので、これも交流を重ねることによって徐々に慣れていくものかなと考えております。
D	ありがとうございます。すみません、もう1点。その際に誰か見守っている大人の方は今後いらっしゃるんですか。
土屋課長	基本的に小学校の学校の様子を見ていても、必ず先生が付いていますし、中学校でも先生と一緒に遊んでいますので、大人がいないという状況は今現在もございませんので、そこら辺はご安心いただければと思います。
D	分かりました。ありがとうございます。
石田課長	お願いいたします。
E	E といいます。授業時間が小学校と中学校で違うと思ったんですけどチャイムは鳴らすんですか。そういうのはどうされるんですか。
土屋課長	小学校の方が1コマが45分、中学校は1コマが50分というような形にはなっているんですが、1時間目はまずスタートが同じ時間に始めたときに、2時間目が終わった後に、小学校は休み時間が長いです。業間休みがありますので、3時間目のスタートが同じ時間になります。5分、10分

	ズれるんですけど休み時間で次に、3時間目のスタートが合います。給食の時間が中学生の方がちょっと短いんですね。そうしていくと今度は5時間目のスタートが揃うようになっていきますので、ポイントポイントで揃えて時間のズレがなるべく無いような形で運用していくような形になります。合っていないところについてはノーチャイムでやっていくような部分もありますので、時間を見てというような形での話になってくるかなと思います。
高沢教育長	具体的にイメージが湧きにくいかとは思いますが、1時間目を揃えましょう。3時間目を揃えましょう。3、4で給食、清掃、昼休み、またここで調整をして5時間目からまた揃えましょうということで、揃えるところでチャイムを鳴らすような形で、あとはできるだけノーチャイムでやっていって、時計を見て子どもたちもね、行動するような。低学年なんかだと、ちょっと難しいこともあるかもしれませんが、だんだん慣らして行って、一斉にスタートするところを揃えたりということで川中学区の方は考えています。
E	同じ時間でしかチャイムは鳴らないということですよ。
高沢教育長	これからの運用でどうなるかは、先の見通しは今そういう計画だっているところなんですけれども、揃えるところを揃えて一斉にスタートしましょうということ。
石田課長	はい、お願いします。
F	Fです。掃除とかはどうなるんですか。
土屋課長	掃除については、小学校は給食後に掃除をやっていると思います。中学校は6時間目が終わってから掃除をしているんですが、下校の関係もありますので、小学校も中学校も給食後に掃除をするような形を考えています。
高沢教育長	あとは自分たちが使った部屋や特別教室は、皆で手分けしてお掃除をしましょうというのは小学校と中学校、今と同じです。
石田課長	ありがとうございます。お願いいたします。

B	入学式や卒業式の参加する児童生徒や、また運営の仕方は、小中別でやるのか合同でやるのか、その辺の予定はどうなるのか教えていただきたいです。
土屋課長	入学式、卒業式については、義務教育学校ではございませんので、小中一貫校ということなので、小学校と中学校があります。なので、小学校、中学校の入学式、小学校の卒業式、中学校の卒業式がございますので、そのような形でやっていきます。入学式についても、一貫校ではあるのですが、小学校と中学校、別々で考えております。
石田課長	お願いいたします。
A	バスなんですけど、うちはバスの区域にはならないんですけど、送迎は例えば〇〇地区はこの場所、帰りもこの場所で降ろすって感じで決まってるんですか。バス停みたいなのがあって、そこに子どもたちは集合してバスに乗ってって、帰りも、5時間目なり6時間目なりが終わったら、バス停に集合して先生が確認して、それぞれ下校していく。それでバス停に降ろす。そしてそこから歩いて帰って感じでいいんですよね。
石田課長	<p>お答えいたします。具体的なスクールバスの運用というような質問だと思うんですね。11年まで、まだ若干お時間がある中で、これから準備委員会の方を開設させていただいて、方向性をはっきり決めた計画の中で、具体的にどういうふうに進めるのが良いかというところをしっかりと話し合っていきたいと思います。そういった中で今仰られたような、例えばスクールバスだけに関して説明させていただきますと、今仰られていたような、どこかに集まってから行く方法が良いのか、運行していく中でいくつかの経由所を決めた方が良いのか、様々な方法があると思うのですが、しっかりと決めていきたいというふうに考えております。</p> <p>いかがでしょう。忌憚のないご意見、ご質問などで結構ですので、せっかくの機会です。お願いします。</p>
F	Fです。川角中学校を建築してから時間が経っているけど、それは平気なんですか。
石田課長	お答えいたします。先ほどの資料の説明の中に入っているんですけども、ページで言いますと10ページになります。川角中学校は大規模改修といって、一度手を入れてありますので、しっかりと使っていけるといいうふうに判断しております。ただ、小学生が入るための手直しというのは当然させて

	いただきますので、安心してください。
石田課長	はい、お願いいたします。
C	この案が決まったら、最短でいつ頃から工事に取り掛かるんですか。
石田課長	工事のスケジュールですけども、29ページ、一番下のところですけども、まず川角中学校区に關しましては令和7年と8年に設計の方が入りまして、その後、9年、10年で工事を行うというような計画となっております。
石田課長	お願いいたします。
E	24ページの川角中学校校舎のイメージの色分けがよく分からないんですけど、現状4階まで中学校はあるんですか。
道地副課長	はい。
E	大規模改修が必要なのは、1階の特別支援教室のみですよ。オレンジ色というのは増築ですか。
高沢教育長	中学校の今の校舎の方は、既に大規模改修をしておりますのでそのまま使えるんですけど、小学生が入るにあたってのトイレを増設したり、今トイレや流しが一か所しかないんですね。複数の学年が入りますので、それぞれの学年が使えるように、トイレと流しの方は整備したいと思いますので、これが増設になります。それから、普通教室の方は、まだ大規模改修の時に手を入れていない教室もありますので、そういうところには改修をいたします。1階のフロアなんですけども、特別支援学級が使うような校舎にしますので、今ある校舎の手を入れていないところを改修させていただきます。小学生が入って複数の学年で使えるような水まわりとか、トイレ等の設備を直したいと思います。
E	それは、夏休み中とか、子どもがいない時ですか。
高沢教育長	計画では、令和7年、8年で設計をして、9年、10年で工事なんですけども、毛呂山町の方は、中学校を2校とも大規模改修をさせていただいたときに、夏休み期間を使ってやらさせていただきました。2期に分けて、2年に分けてやったんですけども、夏休みをちょっと早めて後半ちょっとまた

	<p>長くしてとか、ということで工事をする期間を確保してやりましたので、1学期の終わりがちょっと早くなったり、2学期の終わりがちょっと遅くなったりということで、年間の授業の時数を、それから授業日を確保しながら工事を進めていましたので、子どもたちの学習に必要な時間の確保と、工期をしっかりと取って、工事はしていくようにはしたいと思います。</p>
E	<p>教室には手はそんなに入れないということですよ。中学生の方は流しとトイレを増設するだけ。</p>
高沢教育長	<p>そうですね。これも今、教育委員会が考えている案ですので、専門の設計屋さんがどのような形にそれを活かしてもらえるかによってもちょっと変わってくると思うんですけども。あと小学生の方の増設校舎が校庭の方に入りますので、それも計画的にやっていきます。</p>
E	<p>授業に支障が無いように。</p>
高沢教育長	<p>そうですね。</p>
A	<p>すみません、ごめんなさい何度も。これも友人から聞いて預かっているんですけど、結構皆が気になっているのが、役員でして。今私たち PTA をやっているんですけど、小学校で PTA をやったら中学校ではやらなくていいとか、そういう話があったりとか。地区委員というんですか。そういう関係って、多分これから決めてくれると思うんですけども、考えておいてほしいなというのがあります。結構皆役員が気になっているところもあります。お願いします。</p>
土屋課長	<p>PTA の関係でございますので。先ほどの準備委員会の中に PTA 部会というような形を作りまして、PTA 会長さん等を含めてですね、こういうものっていうあり方ですよ。子どもの数が減っているんで当然保護者の数も減っています。その中で仕事が色々大変なところもありますので、一体型であるのであれば、例えば PTA を一つの塊と考えて9年間やる、会長は1人にするとか、っていう案とかもあると思いますので、その辺は会長とよく話をしながら進めていきたいと思っています。なかなか教育委員会だけで、こうですという形で全部決められるわけではないので、そこはよく相談しながらやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
高沢教育長	<p>今いただいたお話は、実は他の小学校の説明会の時にも実は出てました。単位 PTA の持っている予算はどうするのかとか、あるいは組織をどうするの</p>

	<p>か、役員の決め方はどうするのか、今ここで結論は出ませんので、先ほど課長が申したとおり、準備委員会の中で、PTA に関するものはその部会の中で、しっかりと話を検討させていただくということでお答えさせていただきました。もしご意見があったら、単位 PTA の中で会長さんを通して意見や考え方を集約したりとか、あるいは、こんなふうなのがいいんじゃないかなっていうのがあったら、ぜひご意見いただければ助かると思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>併せて、先ほど 28 ページで出した準備委員会、こちらの方は各部会の方に、それぞれ準備委員さんに入らせていただく形で、こちらの方準備させていただいております。それぞれの部会の方でしっかりと学校運営等についてご意見をいただきながらより良いものにさせていくような、そんな準備期間として捉えてもらえればありがたいかと思います。</p>
石田課長	はい、お願いいたします。
D	D です。校舎のことに関してなんですけれども、1 年生から 4 年生が使う方の校舎に更衣室は設けられないんでしょうか。今うちの子が 4 年生なんですけど、空き教室を利用して更衣室として男子と女子が分かれていますので、今後はどうなるのかなと思ひまして。
石田課長	今のご回答として、設けられる、設けられないという明確な回答の方は控えさせていただきたいのですけれども、中学生の方に更衣室というのは、小学生と中学生が共に生活する場であるというところ、そういった中での教室の利用というところでのご紹介というふうにはさせていただきました。これから増設校舎の方もしっかりと検討していく中で、そういうご意見があったというところはお預かりをさせていただきたいと思うのですけれども、更衣室というふうに限定した教室を準備しない、他の運用の中でうまくやっていける方法はないかというところも併せて検討していきたいと思ひますので、ご理解を願いたいと思ひます。
石田課長	非常にご質問がしやすい状況なのかなとは思ひますので、もしでしたら他に何かご意見あるようでしたらお願いします。
C	単純な疑問なんですけれども、校長先生とか教頭先生とかは、それぞれいらっしゃるようになるんですか。
土屋課長	川角中学校区においては、施設が 1 つになりますので、今想定しているのは校長先生は 1 人と考えております。毛呂山中学校区については、完全に施設

	<p>が2つ分かれている、敷地は一体なんですけど施設は分かれていますので、管理する校長先生はそれぞれ置くような形です。ただ川角中学校区については、教頭先生は2人になります。校長先生が小と中を両方兼ねますので、その1人の枠については教諭を充てることができますので、先生が1人増える、増えるというか、校長先生の代わりに先生が1人そこに入るような形になると考えています。</p>
石田課長	<p>いかがでしょう。随分とたくさんの質問などをお預かりできました。他にありますか。もし無いようであればこの辺りで締め切ろうと考えてますけれども、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、もしこれから何かご質問などあるようでしたら、メールなどもございますし、お問合せをいただければ、できるだけお答えしたいとも思いますし、まだ夜16日だったり、10日であったり、こういった保護者さんに対する説明会の方をという機会もありますので。まだ席の方空いております。ご参加いただいてもよろしいかと思えます。</p> <p>それでは、たくさん質問をお預かりしたということで、本日の説明会につきましては、ここでひと段落というようにさせていただきたいと思えます。最後に教育長から、一言お願いをいたします。</p>
高沢教育長	<p>貴重なご意見や、それからご提言ありがとうございました。今後も、より良い小中学校を作っていくために、ぜひ参考資料とさせていただきたいと思えます。1つご紹介なんですけど、先ほど説明の中で教科センター方式というので、数学室、それから外国語室などがありました。昔、我々が中学校の時に理科室での授業とか、家庭科室での授業とかってあったかと思うんですけど、あのような形で算数や数学、それから英語に特化した教室を設けて生徒さんたちがそこに行って学ぶというような方式をぜひ考えてみたいと思えます。子どもたちも学ぶ環境によって身につく力も違うと思えますので、子どもたちが積極的に学べる、そういう環境は今後整えていきたいと思えます。あとは小中の先生方の交流なんですけども、国や県の方でも小学校の高学年で算数、理科、それから体育、それから外国語、これを専科教員の、それを専門に教員で指導する先生を用意して、学力をしっかり身につけましょうという方針です。なかなか小学校で、例えば理科を専門にとか、英語を専門にとか、あるいは体育を専門にというのは中々それは難しい状況もございまして。そこで、中学校の専科教員の先生、英語の先生ですとか理科の先生、体育の先生などの持ちコマ、時間数を調整して、小学生の先生と一緒に、チームティーチングで教えましょう、小学校の先生方の負担を少し減らして、中学校の先生が応援に行きましょうというような形で今後進めていきたいと思えます。すでに本町の方では、小学校の方に中学校の先生が向</p>

<p>石田課長</p>	<p>いて、出前授業等をやっていますので、さらにそれを発展するような形で、子どもたちの学習意欲の向上ですとか、確かな学力の定着に向けてね、そちらの方は是非進めていきたいと思います。そのような形で今後も、今やっている小中連携の授業をさらに発展する形で展開していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。施設設備の話もありましたが、そういうソフトの面も充実させていければと思いますので、よろしくお願いいたします。休日の午後ということで、時間をいただきましてありがとうございました。また今後とも、こちらの方で細かなところも煮詰めながら進めていきますので是非よろしくお願いいたします。お友達とか、お知り合いの方にも、こういうことがあったよっていうことを広めていただいて皆さんと共に進めていければと思います。本日はどうもありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。</p>
-------------	---